「近代中国文学の開祖」魯迅の原書を展示－魯迅先生との出会いの体験をどうぞ！

小山　三郎(中国現代文学研究者)

－魯迅という作家

魯迅(1881 年－1936 年)は、日本で最も有名な中国人作家です。中学校の国語のどの教科書にも、作品「故郷」が掲載され、高校の国語の教科書には「藤野先生」が採用されています。ですから日本人に最もなじみのある作家です。中国人の留学生の皆さんもこれまで教科書で作品に触れてきたと思います。

でも教科書に載っている作家、作品は、強制的に読まなければならないということで、好きになれないという人も多いのではないかと思ったりします。そう言うと「その通り！」と納得する人もいますよね。

－皆さんへの 2 つの質問

そこで魯迅に嫌悪感を抱かない読み方を教えます。クイズ形式です。

質問 1　魯迅は、専業作家でした。専業作家というのは、どれくらいの収入があったと思いますか。

質問 2　魯迅の作品集のなかで、一番売れたのは……

－答え　その 1

なにか雑学のようですが、「革命作家」魯迅だからといって、「霞(カスミ)」を食べて生きていたわけではないのです。ある時には、読者に「流行作家」としてサービス精神を発揮することもあったのです。

魯迅は、中華民国教育部の役人の時代、厦門大学・中山大学の教員の時代を経て、最後に専業作家として上海で人生を終えました。専業作家の時代は、1928 年から 36 年までの比較的短い時間でした。最初から、ずっと作家であったわけではないのです。魯迅によると当時、専業作家で生計をたてている者は、数人に過ぎないということです。専業作家は、珍しい存在でした。

となると魯迅の収入は、どうだったのかという疑問が浮かび上がります。結論から言えば、上海時代の 9 年間を調べてみますと、月平均 517 元という計算になります。当時の国立大学の教授の給与は、400 元(私立復旦大学教授は 200 元程度)だったようです。魯迅も月 400 元は必要だと言っています。その金額のうちで 100 元は、北京にいる母親と妻の生活費、100 元は書籍代、残りの 200 元は上海での生活費となっていたようで、400 元も収入のある家庭は、裕福な階層であったようです。

－答え　その 2

　では、魯迅の数ある著作の中でなにが一番売れていたのかという、つぎの疑問が生まれます。これも結論を言えば、「狂人日記」「阿Ｑ正伝」を収めている第一創作集『吶喊』(とっかん)だったことがわかります。ちょっとこまかい数字になりますが、以下の表をみてください。当時は、現代のように出版社が刊行冊数を公開していたわけではないので、魯迅の日記から拾い出した数字です。

『吶喊』刊行部数の推移
1923 年 5 月 20 日　新潮社に印刷費として 200 元を貸与する。
　　　　12 月　　　2 版 2500 部を増刷、初版は 2000 部。
1924 年 1 月　『吶喊』の純益金 260 元渡される(初版の金額らしい)。
1926 年 7 月　第 4 版 3000 部(通算 10500 部となる)
1927 年 3 月　第 7 版 5000 部(13501－18500、通算 18500 部となる)
1930 年 7 月　第 14 版(43501－48500、通算 48500 部となる)

　この刊行部数の推移から、当初出版社には印刷費もなかったこと、刊行後『吶喊』が大ベストセラーになり、その印税が魯迅の作家生活を支えていたことがわかります。あの「阿Ｑ正伝」の主人公「阿Ｑ」が魯迅を流行作家に押し上げたのです。ずっと売れ続けていたということは、現代の出版界では理解できないことです。

　これで 2 つの質問に答えたのですが、実は、魯迅にはもう一冊売れた本がありました。1933 年刊行の『両地書』(りょうちしょ)です。魯迅には、北京に妻がいましたが、上海で一緒に生活していた女性がいました。その人は、魯迅が北京女子師範大学で教えていた時の教え子の許広平です。魯迅は、上海で彼女と生活を伴にするのですが、二人の間に交わされていた「手紙」、－恋文ですよね－が刊行され、これが大ベストセラーになったのです。読むと、とても恥ずかしい手紙が多数含まれています。今ならば、「文春砲」の餌食にされるのでしょう。

　どうですか。魯迅先生を見直したでしょう。教科書のなかの「大作家」の厳めしい姿が人間味のある「オッサン」の姿に変化したでしょう。

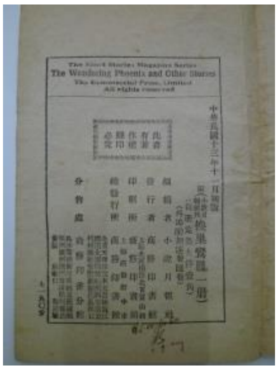
－魯迅先生がここにいますよ！
　では、展示物を紹介します。

・まず『吶喊』です。1927 年 3 月に刊行された第 7 版(13501－18500、通算 18500 部)です。前年に刊行された第 4 版から表紙が変わり、魯迅自身が書名の文字をデザインしたものです。よく眺めて鑑賞してください。

・『生死場』は、魯迅が蕭紅のために刊行した本です。魯迅が死ぬ前に刊行されています。いまでも多くの愛読者のいる女流作家蕭紅は、魯迅によって文壇に登場できたのです。『吶喊』の表紙とよく似ていますね。

（所蔵：1939 年 18 版　上海容光書局版）

・『創造月刊』『小説月報』の 2 冊は、1920 年代の文壇に新たな潮流を生み出すのに大きな役割を果たした雑誌です。中国国内の出版社が複製本を出したこともありますが、これはもちろんオリジナル本です。ある種の風格が感じられます。



（所蔵：「創造月刊」1926 年 4 月 16 日出版）

（所蔵：「小説月報」1924 年 11 月出版）

・魯迅の 2 冊の本を紹介します。

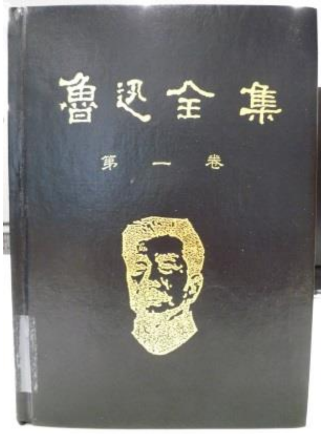
『芸苑朝華(新俄画選)』…魯迅は版画に大きな興味をいだいていた作家でした、魯迅自らが編集した雑誌です。

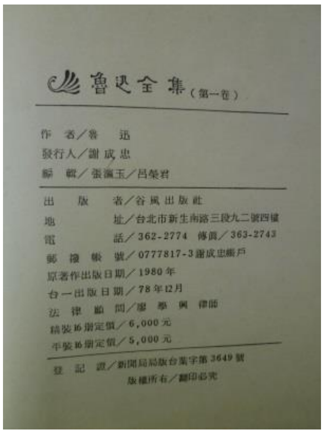
（所蔵：1930 年　上海光華書局発行）

・『芸術與批評』(ルナチャルスキー著)は、当時のソビエトの作家の文学論の翻訳です。魯迅の文学論は、この翻訳を通じて大きな影響を受け、深まっていきました。（所蔵：1929 年初版　水沫書店）

・『魯迅全集』は、魯迅死後直後に刊行されました。それ以降、全集は定期的に改訂版がでています。展示されている本は、最初に刊行された全集の一冊です。（所蔵：1973 年初版　人民文学出版社）

・黒表紙『魯迅全集』(台湾版)は、台湾台北で刊行され、直後に「発禁処分」された本です。地下出版されると、国民党当局に摘発されるので公に姿を現すことがありませんでした。1990 年代入ると台湾は、すっかり民主化体制へと変貌し、魯迅の作品も自由に読めるようになりました。10 数年前、ある書店の倉庫の奥深い場所に 1 セットだけが発見されました。

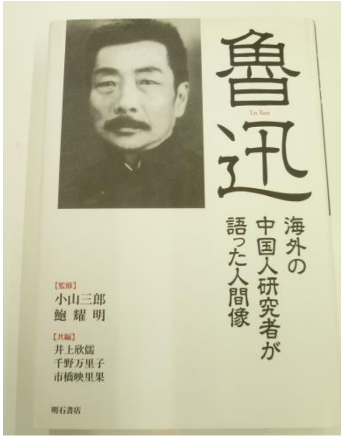




この本は、その時の全集の一冊です。この全集は、きっと台湾の時代が変化するのを静かに待っていたのでしょうね。当時、検閲を逃れ、1 セットのみが日本に入ったのが確認されています。どこにあるのかは、不明です。

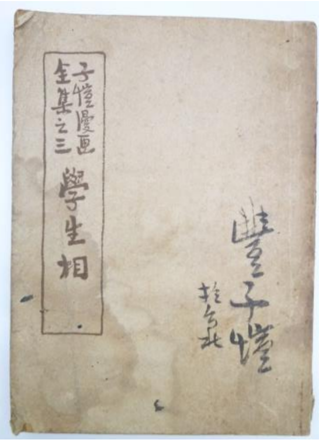
（所蔵：1980 年出版　谷風出版社）

日本書(魯迅論)を紹介します。

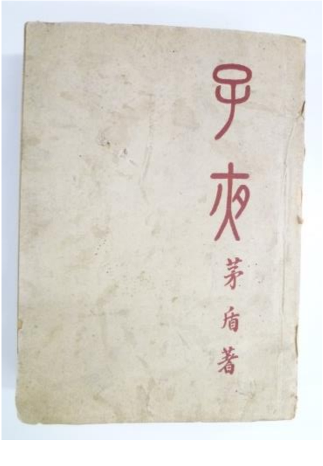


・明石書店『魯迅』には、魯迅の弟の周作人の長男である豊一さんの日本語で書かれた通信文が収められています。香港の文人の鮑耀明さんとの間に交わされた通信文のなかに 1923 年に魯迅と周作人の間に起こった兄弟の不和の原因が語られています。もしも現代ならば、魯迅は女性問題で社会的に葬り去られていたであろう出来事が書かれています。当時の中国は、現代の社会と違いスキャンダルや暴露の尺度が違ったようです。(所蔵：2011 年初版　明石書店)

・清水書院『魯迅』は、今月(12 月)に刊行となります。刊行したら展示します。魯迅は、作家である前に中国小説史の研究者でした。かれの研究者の視点が文学者魯迅の生き方を決めていたことを語った本です。大学一年生以上の一般読者向けの本として執筆しました。本文中の魯迅関連写真の幾枚かは、いま北京・上海に留学している学生諸君に撮影してもらいました。興味のある人がいましたら、図書館で借りて読んで下さい。



ー昔の中国の大学生は、この本を読んでいた！
1930 年代の出版物を紹介します。
・豊子愷(ほうしがい)の書も楽しんでください。魯迅と親交のあった近代中国を代表する知識人であり、著名な漫画家です。独特の筆遣いですね。サイン入り本を展示しました。
(所蔵：1947 年 3 版　開明書店)



・茅盾『子夜』は、30 年代にベストセラーになった本です。魯迅が高く評価し、親交のあった作家です。当時、大学生たちが手に持っていた『子夜』は、この本です。
(所蔵：1946 年 7 版　開明書店)

・周起應(周揚)『新俄文学中的男女』を展示しました。周揚は、晩年の魯迅と激しく対立し、中華人民共和国時代になると魯迅の弟子たちをつぎつぎに批判した文芸指導者でした。現代中国文学史に関心をもつ学生諸君がいれば、じっくり鑑賞してください。

（所蔵：1932 年初版　現代書局）

ー最後に一言、「古書の世界に遊びませんか」

今月の展示コーナーを楽しんでいただけましたか。

古書の世界は、奥深いものがあります。展示してある『吶喊』は、90 年前に刊行された本です。日中間の戦争をくぐり抜け、中国国内の政治動乱も体験し、生き残ってきた一冊の本です。そしていま、本学図書館に所蔵されています。人に人生があるように、これらの書物にも様々な運命的出逢いがあったはずです。わたしと『吶喊』『生死場』を始めとする 30 年代の本との出会いは、一瞬時間が止まった感覚でした。魯迅先生が目の前に姿を現した気持ちですね。

今回、井の頭キャンパスでその一部を皆さんに鑑賞してもらえたことが、これらの書物にとってとても幸福なひと時であったと思います。感謝！

（2017.12-2018.1 展示）

2017年12月～2018年１月展示関連資料

＊2階の新着展示棚に展示しています。

No.		資料ID	書誌事項	請求記号
1	魯迅著作	0016110363	中国小説の歴史的変遷 : 魯迅による中国小説史入門 / 魯迅著 ; 丸尾常喜訳注. -- 凱風社, 1987.7.	923:C62
2		0094266707	阿Q正伝 ; 狂人日記 : 他十二篇. -- 改訳. -- 岩波書店, 1981.2. -- (岩波文庫).	923.7:R62
3		0008517351	野草 / 魯迅作 ; 竹内好訳. -- 改訳. -- 岩波書店, 1980.7. -- (岩波文庫 ; 赤(32)-25-1).	923.7:R62
4		0008512568	朝花夕拾. -- 岩波書店, 1955.10. -- (岩波文庫).	923.7:R62
5		0094274057	魯迅評論集. -- 岩波書店, 1981.9. -- (岩波文庫).	920.28:R62
6	中国語版著作	0008581266	墳 ; 熱風 ; 吶喊 / [魯迅著]. -- 谷風出版社. -- (魯迅全集 / [魯迅著] ; 第1巻).	928.78:L96:1
7		0008581274	彷徨 ; 野草 ; 朝花夕拾 ; 故事新編 / [魯迅著]. -- 谷風出版社. -- (魯迅全集 / [魯迅著] ; 第2巻).	928.78:L96:2
8		0008581365	两地書 ; 書信(1904-1926) / [魯迅著]. -- 谷風出版社. -- (魯迅全集 / [魯迅著] ; 第11巻).	928.78:L96:11
9	魯迅について	0008577744	从认知語言学的角度浅析魯迅作品 : 魯迅をシナジーで読む / (日)花村嘉英著. -- 华东理工大学出版社, 2015.	920.278:C86
10		0008547689	魯迅 : 海外の中国人研究者が語った人間像 / 井上欣儒, 千野万里子, 市橋映里果共編. -- 明石書店, 2011.	920.278:R62
11		0094212099	魯迅 : その文学と革命. -- 平凡社, 1965.7. -- (東洋文庫).	080:To82:47
12		0016439705	魯迅 : 野草と雑草 / 秋吉收著. -- 九州大学出版会, 2016.	921.7:R62
13		0016431512	魯迅と日本文学 : 漱石・鷗外から清張・春樹まで / 藤井省三著. -- 東京大学出版会, 2015.	920.278:F66
14		0014321939	孔子と魯迅 : 中国の偉大な「教育者」 / 片山智行著. -- 筑摩書房, 2015. -- (筑摩選書 ; 0114).	124.12:Ko95
15		0016398257	魯迅とトロツキー : 中国における『文学と革命』 / 長堀祐造著. -- 平凡社, 2011.	920.278:R62
16		0016239071	魯迅の仙台時代 : 魯迅の日本留学の研究 / 阿部兼也著. -- 改訂版. -- 東北大学出版会, 2000.3.	920.28:R62
17	関連作家	0016112666	蕭紅 / 蕭紅 [著] ; 王述編. -- 生活・讀書・新知三聯書店香港分店, 1982. -- (中國現代作家選集).	928:Xi